



過去に提出した冬期要求が改善される!

10月11日地本は支社より2023年度冬期の取り組みについて説明を受けました。これまでの冬期要求や長岡車両センター廃止に関する団体交渉において、東日本ユニオンが要求したり進言したりしていた要求項目が盛り込まれた内容となっていました。改善された主な内容を掲載します。

●越後川口駅構内の消雪能力向上について「節水型消雪スプリンクラー新設」

2022年度申7号などにおいて越後川口駅構内で発生した積雪による運転不能対策を求めてきました。対策として停止位置の変更、除雪機械のフランチャーを下げることを示されましたが、消雪用井戸を新たに掘ることなどを求めてきました。

●巡回除雪契約見直しによるホーム端まで計画的除雪

2022年度申19号などの交渉においてホーム上屋根がない箇所は始発列車前までに2両分除雪を実施し、その後編成両数最長分除雪を行う契約でした。ホームに積み上げられた雪により車掌が状態注意を行うことのできない状況であったため、ホーム端までの除雪実施を求めてきました。

●制輪子凍結対策石打駅におけるパンタグラフ上げ留置実施

過去の交渉において無理にパンタグラフを降下させると、翌日パンタグラフが降下した状態で凍結し上昇させられないことから、バッテリー切りとしてパンタグラフ上げ留置を労使で議論してきました。

●旧長岡車両センター構内の冬期の安全・安定輸送の確保に向けて

運輸部門の組織再編についての交渉などにおいて長岡車両センター廃止後の冬期対応として交渉の中で議論してきました。留置車両の庫内留置や長岡駅2番線を活用する方法など前店に議論してきました。

労働条件・労働環境改善には労働組合が必要だ! 東日本ユニオンに加入しよう!